

F-1 乗降場の配列及び中間小停車場の3型式に就て

會・工・古 藤 猛 哉

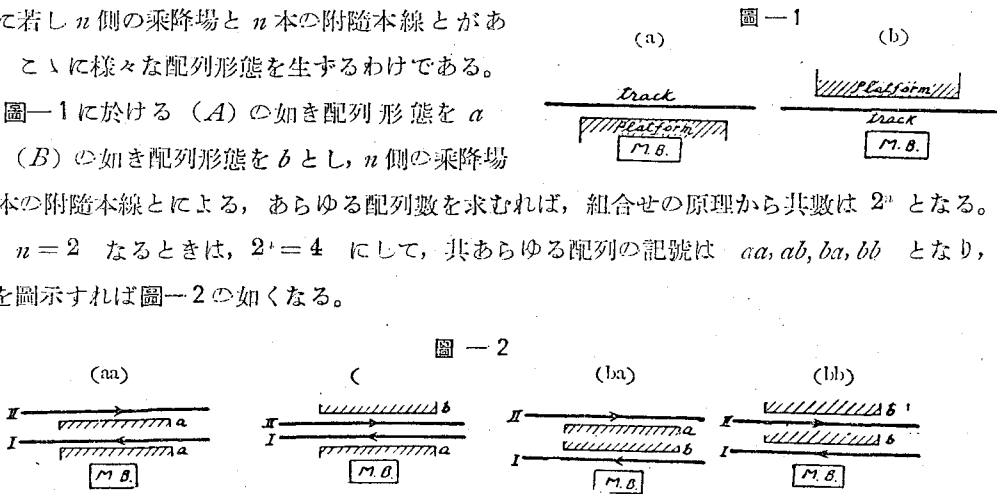
乗降場は、本來の性質として、 $\frac{1}{2}$ 側 (One side) の乗降場に對し、必ず 1 本の本線を隨伴するものである。従て乗降場が其附隨本線に對し、本屋側にあるか、又其反對側にあるかに依つて、乗降場と本線との配列状態は異なる、即ち圖一 1 に見るが如くである。

故に若し n 側の乗降場と n 本の附隨本線とがあれば、こゝに様々な配列形態を生ずるわけである。

即ち圖一 1 に於ける (A) の如き配列形態を a とし、(B) の如き配列形態を b とし、 n 側の乗降場

と n 本の附隨本線とによる、あらゆる配列数を求むれば、組合せの原理から其数は 2^n となる。

今 $n = 2$ なるときは、 $2^2 = 4$ にして、其あらゆる配列の記號は aa, ab, ba, bb となり、これを圖示すれば圖一 2 の如くなる。



圖一 2 に於て、Ⅰ線を上り線、Ⅱ線を下り線とし矢印を附すれば、本線が上下 2 本線のみである中間小停車場の單純なる形態として之を見ることが出来る、即ち上下 2 本線のみよりなる中間小停車場のあらゆる形態は、圖一 2 に示す如き 4 種類に限られることが解る。

こゝに此の 4 形態を観ると、(bb) の他は所謂

(aa).....Haupt- und Zwischen- Bahnsteig, 併列乗降場

(ab).....Aussen- oder Gegen- Bahnsteig, 外側乗降場

(ba).....Insel- oder Mittel- Bahnsteig, 島式乗降場

として既に知られて居る形態である。

そこで、此等 4 形態に就き停車場としての便不便を比較して見たいと思ふ、而して其結論としては：

(aa) は閑散なる地方の驛形態に適す

(ab) は高架鐵道又は地下鐵道の驛形態に適す

(ba) は大驛の形態に適す

(bb) は以上 3 者の缺點のみを有し何等利點なきが故に使用し難き形態である。